



100年前の原始性が感じられる森林を復活させよう

ニュースレター

野幌「森林づくり塾2015」

石狩地域森林ふれあい推進センター
TEL: 011-533-6741
FAX: 011-533-6743

第1回「森林づくり塾2015」を開催しました

「野幌森林公園の140年の歩みと未来」 —森と人々との係わり—

「森林づくり塾」は、平成16年の台風被害にあった野幌森林公園の自然再生プロジェクトの一環として、市民の皆さんが、植栽などの森林づくりに関する実体験や知識の習得をしながら、森林と人との係わりなどについて学んでいくものです。

今年度は、年3回の開催を予定し、第1回目の「森林づくり塾」を6月27日(土)に開催しました。

今回は、野幌森林公園の歴史について森林と人との係わりをテーマに公園の歴史に精通しておられる地域史研究家・西田秀子氏を、お招きし講義していただきました。募集人員20名のところ22名の参加があり、会場の自然ふれあい交流館は、ほぼ満員状態でした。

講義は、明治初期の野幌の官林指定に始まり、明治41(1908)年の林業試験場の開設に伴い、様々な人々が野幌で係わってきた歴史をスライドを交えて、終戦までの70年間について講義していただきました。大正モダニズム時代の講義では、野幌林間大学が毎年夏に開催され、その当時の校歌を塾生の皆さんが歌うという余興もありました。これには講師の西田氏も大喜びでした。

午後からは、フィールドワークとして昭和11年陸軍大演習で北海道を訪れた昭和天皇が、野幌にある林業試験場を秩父宮・三笠宮と行幸し、昼食を取ったとされた道を逆にたどってみることにしました。

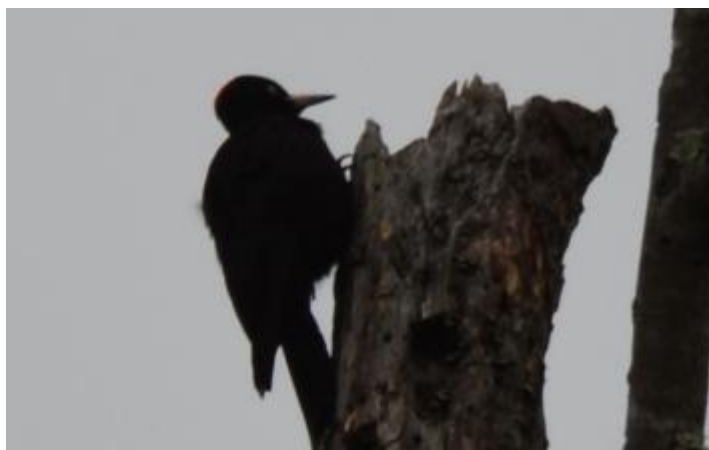
歩いている途中、クマゲラが枯れ木に止まっている姿を偶然に発見し、一同ちょっと興奮。こんな風景は、めったに見られないと皆さん、さかんにシャッターを切っていました。



地域史研究家 西田 秀子氏



満員のレクチャールーム



クマゲラも歓迎？



一斉にシャッターを切る参加者

フィールドワークの後半、大沢園地の近くの昭和天皇の「駐蹕の碑」が建てられているところで記念写真、フィールドワークの終盤には、今は江別市の登録文化財となっている林木育種場旧庁舎内を見学し、初代拓殖部林務課長として18年間、北海道の林政確立に向けて尽力され、温根湯で亡くなった林駒之助氏の「仰徳の碑」の前で西田氏の説明を受け、当日のスケジュールを終えました。

長年、野幌森林公園を散策した方々も旧林木育種場へ入場できる事を知っている人は少なく、有意義な1日となりました。



駐蹕の碑で記念撮影